



S. Suzuki

THE DIAMOND STAKES

第75回 ダイヤモンドステークス (GIII)

1着	2着	3着	4着	5着
本賞 43,000,000円	17,000,000円	11,000,000円	6,500,000円	4,300,000円
付加賞 581,000円	166,000円	83,000円		



レース映像に
コチラでご覧

4歳以上、2024.2.17以降2025.2.16まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

4歳以上、2024.2.17以降20

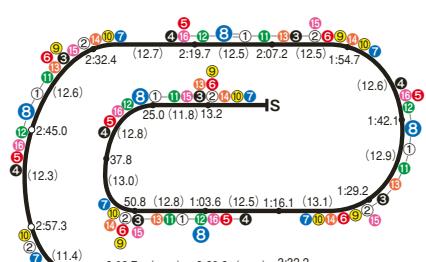
2025.2.22 東京 晴・良 芝3400歩 国際 特指

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m ^上)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑧	ヘダンントール	牡 4	57	戸崎圭太	3:32.2	5-5-5-1	34.9	482(+10)	1.9①	木村哲也(美浦)	115
2	⑤	ジャンカズマ	牡 7	54	野中悠太郎	4	2-2-2-2	35.4	492(±0)	88.2⑩	西田雄一(美浦)	102
3	⑨	ヴェルミセル	牡 5	53	川又賢治	1 1/2	12-13-10-9	35.1	466(+4)	33.1⑩	吉村圭司(栗東)	99
4	①	ワープスピード	牡 6	58	横山武史	クビ	6-6-6-2	35.8	512(—)	4.6②	高木 登(美浦)	109
5	⑪	シートルーヴェ	駆 6	59	鮫島克豊	½	7-7-7-8	35.3	482(+4)	7.8③	堀 宣行(美浦)	
6	⑯	ショウナンパンシット	牡 5	57	横山和生	4	2-2-3-5	36.3	494(+4)	20.2⑥	須貝尚史(栗東)	
7	⑥	メイショウブレグ	牡 6	56	藤岡佑介	¾	13-12-8-7	36.3	476(+2)	25.1⑨	本田 優(栗東)	
8	④	セイウンブラチナ	牡 6	54	内田博幸	½	1-1-1-2	36.9	506(—6)	85.7⑪	千葉直人(美浦)	
9	⑯	コバノサンタス	牡 5	56	石橋 翁	クビ	4-4-4-5	36.6	460(—16)	21.4⑦	梅田智也(栗東)	
10	③	サスツルギ	牡 5	56	北村宏司	1	9-9-10-11	36.1	490(—6)	146.8⑬	木村哲也(美浦)	
11	⑯	マイネルケレウラ	牡 5	55	石川裕紀	½	14-14-14-12	36.1	436(+8)	11.4④	奥村 武(美浦)	
12	⑯	シリプロン	牡 7	57	大野拓弥	クビ	8-8-8-9	36.5	516(+16)	17.0⑤	稻垣雄之(美浦)	
13	②	オーロイブレータ	牡 5	56	松岡正海	9	10-10-13-15	37.0	542(—18)	167.3⑩	宮本 博(栗東)	
14	⑦	ダンディズム	駆 9	57	田辺裕信	1	16-16-16-14	37.5	474(+2)	21.8⑧	野中賢二(栗東)	
15	⑩	ウツセ	牡 6	55	吉田 豊	クビ	15-15-15-16	37.0	480(—4)	288.0⑯	山村真義(栗東)	
16	⑯	フタイデンロック	牡 6	54	木幡巧也	9	10-10-12-12	39.3	504(+12)	155.6⑨	佐藤吉勝(美浦)	

単勝⑧190円(1人気) 複勝⑧130円(1人気) ⑤1,100円(11人気) ⑨600円(10人気) 枠連③-④1,990円(9人気)

馬連⑤-⑧11,420円(31人氣) ワイド⑤-⑧3,050円(32人氣) ⑧-⑨1,160円(12人氣) ⑤-⑨16,030円(70人氣)
馬連⑨-⑩1,160円(12人氣) ワイド⑨-⑩3,050円(32人氣) ⑩-⑪1,160円(12人氣) ⑨-⑪16,030円(70人氣)

馬単⑧-⑤14,470円(37人気) 3連複⑤-⑧-⑨55,370円(126人気) 3連単⑧-⑤-⑨209,810円(483人気)



通過タイム : 600ドル 800ドル 1000ドル 上り : 800ドル 600ドル
37.8 - 50.8 - 1:03.6 47.2 - 34.9

アラカルト

- ・戸崎圭太騎手はダイヤモンドS初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算80勝目
 - ・木村哲也調教師はダイヤモンドS初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算33勝目
 - ・ルーラーシップ産駒はJRA重賞通算37勝目
 - ・4歳馬の勝利は23年ミクソロジーに続く通算35回目
 - ・非抽選馬 1頭(グリューネグリーン)

ヘデントール Redentor

牡 黒鹿毛 2021.4.6生

北海道安平町 ノーザンファーム生産

馬主・育成キヤロットファーム 美浦・木村哲也厩舎

馬名意味・救世主(ポルトガル語)。コルコバードの丘のキリスト像より

アズテックヒルUSA系 F17-b

ルーラーシップ 鹿毛 2007	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo
	マンファスIRE	
	エアグルーヴ 鹿毛 1993	トニービンIRE
コルコバード 黒鹿毛 2013	ステイゴールド 黒鹿毛 1994	ダイナカール
	エンシェントヒル 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA
		ゴールデンシッピュ
		エンドスワープUSA
		アズテックヒルUSA

5代までのインブリード: Mr.Prospector S 4×M5 ノーザンテーストCAN S 4×M5

INTERVIEW

佐々木淳吏厩舎長(ノーザンファーム空港)

レースごとに完成度が高まっています

当時の印象としては線の細さに加えて、ルーラーシップ産駒特有の緩さも感じられました。じっくりと進めていましたが順調さを欠いたことはなく、本州へも早い時期に送り出しました。牧場にいた頃からスタミナタイプの馬だと思ってきましたが、それを芝の長距離重賞で証明できたのは嬉しかったです。レースごとに完成度が高まっているのでG Iも楽しみです。



Photostud

父ルーラーシップ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 詳細はP.10参照

母コルコバード

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央16戦5勝(湾岸S、箱根特別、丹頂S 0着2着、スイートピーS 0着3着)

パンデアスカル(20 牡父モーリス)中央14戦2勝(⑧)

ヘデントール 本馬(21 牡父ルーラーシップ)中央8戦5勝(ダイヤモンドS G3、

日本海S、町田特別、菊花賞G1 2着)獲得総賞金182,951,000円

(22 流産)

クライストヒル(23 牡父リオンディーズ)

(24 牡父レイディオロ)

祖母エンシェントヒル

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央7勝(ファイナルS 0着、仁川S 0着2回、トパーズS 0着、灘S 0着2着)、地方0勝。22年転売不明

ノッティングヒル(08 牡父タイキシャトルUSA)中央0勝、地方1勝

フルヴィエール(11 牡父スペシャルウィーク)中央0勝、星、マレーシア0勝、地方1勝

コルコバード(13 前出)

リカビトス(14 牡父ディープブリランテ)中央4勝(五頭連峰特別、八ヶ岳特別)

エンシェントアイル(18 牡父ミッキーアイル)中央0勝、地方1勝

ウォーカーカップ(20 牡父サトノダイヤモンド)中央0勝、地方1勝

曾祖母アズテックヒルUSA

北米8勝(ファンタジーS G2、ブラックアイドスザーンS G2、ハニービーS G3、ブサンダS・L、サンボネットS・L、コティリオンH G2 2着、ハニービーH G3 2着)、95年輸入、04年輸出(豪)

エンシェントヒル(01 前出)

ショコアトル(02 牡父エンドスウェーブUSA)中央0勝、地方2勝

テペヤク Tepeyac(07 雄父Hussonet)豪1勝

メヤンプロフェシー Mayan Prophecy(09 牡父Snitzel)豪3勝

母の父ステイゴールド

北海道白老産 中央、香、首7勝(香港ヴァーズG1、ドバイシーマクラシック・首G2)〔BMS代表産駒〕アランバローズ(全日本2歳優駿Jpn I、父ヘニーヒューズUSA)、ヘデントール(本馬)、ライオンボス(アイビスサマーダッシュG3、父バトルプランUSA)、クリスマス(函館2歳S G3、父バゴFR)

力の違いを見せつけ悠々ヒゴール

菊花賞で2着に食い込んだ後、ひと息入れて春に備えていたヘデントールがここから始動。冬の東京開催を彩るマランソーレース・ダイヤモンドSは、57kgのハンデを課された4歳馬が圧倒的な支持(単勝1・9倍)を集めた。昨年の3着馬で、秋の豪州遠征でも力を示した(メルボルンCハナ差2着)ワーブスピード、G II 2勝の実績を誇り、トップハンデ(59kg)を背負つショットルヒュエの両6歳馬がこれを阻む存在と目されたものの、結果はヘデントールが完勝。力の違いをさまざまなと見せつけ、重賞初制覇を果たした。

向正面半ばのスタート地点からゲートが開くと、セイウンプラチナがスッ

と飛び出して先制、緩やかなラップを刻んで風を切る。スタンド前を経て、1コーナーを回ると馬群の隊列は縦に延び、ヘデントールの戸崎圭太騎手は先頭から8馬身ほど離れた5番手を追走。ワープスピードはそこから10馬身近く離れた6番手、さらに3、4馬身差の7番手にショットルヒュエが続き、中盤までの各馬はリズム重視の構えでレースを運んだ。

戦況が一変したのは2周目の3コーナー。徐々に差を詰めてきたワープスピードが並びかけると、ヘデントールも応戦して動き、火花を散らしながら4コーナーを回った2頭が先行勢を呑み込んで直線に向く。しかし一騎打ちの予感が漂ったのは坂下まで。十分なスピードを突き放し、たちまちリードを開く。その脚勢は最後まで陰らず、2着のジャンカラズマに4馬身差をつけ、悠々とゴールを駆け抜けた。

ゲートで立ち遅れ、道中の折り合いも欠いた青葉賞(1番人気8着)を除けば、まだ連対を外していない本馬。課題のスタートを決めて流れに乗ったこの日は、「横綱相撲」といえる取り口の完勝劇を演じ、秘めた潜在能力と長距離適性の高さを存分にアピールした。3歳時に比べ、馬体もひと回りスケールアップ。菊花賞で重門に下ったアーネ

ンシックとの再戦が楽しみだ。